

米子工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	基礎英語演習 I
科目基礎情報					
科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	Vision Quest English Grammar 24 (啓林館) English Grammar 24 Workbook (啓林館) Ultimate 総合英語 (啓林館)				
担当教員	中井 大造, 森田 典幸, 青砥 正彦				
到達目標					
1) 学んだ文法のルールが理解できる。 2) 学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできる。 3) 学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	学んだ文法のルールが理解できる。	学んだ文法のルールがある程度理解できる。	学んだ文法のルールが理解できない。		
	学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできる。	学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりある程度できる。	学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできない。		
	学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできる。	学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりある程度できる。	学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 E					
教育方法等					
概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目である。中学校で習得した語彙・文法を基礎にして、さらに英語の理解と表現の幅を広げるための文法事項を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばす基盤となる文法力を身につける。				
授業の進め方・方法	文法書とワークを使いながら授業を進める。毎授業新しい文法事項を学ぶため、その日のうちに復習をし、学習内容を定着させること。復習用の問題集があるのでそれを宿題として解き、毎時間提出すること。授業に関する質問は適宜受けつける。積極的な授業参加を期待する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	修学ガイダンス、中学で学習した主な文法事項	授業概要を理解する。また、テキスト、参考書、ワークブックの使い方も理解する。	
		2週	文の成り立ち、文の種類	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		3週	文型と動詞 (1)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		4週	文型と動詞 (2)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		5週	plus 文型と動詞	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		6週	前期中間試験までのまとめ	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		7週	前期中間試験	前期中間までに習った内容を理解する。	
		8週	時制 (1)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
	2ndQ	9週	時制 (2)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		10週	完了形 (1)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		11週	完了形 (2)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		12週	plus 時制と完了形	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		13週	総復習	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		14週	前期末試験までのまとめ	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		15週	前期のまとめ	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		16週	前期末試験	前期末までに習った内容を理解する。	
後期	3rdQ	1週	助動詞 (1)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		2週	助動詞 (2)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	
		3週	助動詞 (3)	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。	

4thQ	4週	plus 助動詞	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	5週	受動態	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	6週	plus 受動態	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	7週	後期中間試験	後期中間までに習った内容を理解する。
	8週	不定詞（1）	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	9週	不定詞（2）	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	10週	不定詞（3）	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	11週	plus 不定詞	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	12週	動名詞	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	13週	plus 動名詞	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	14週	分詞（1）	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	15週	分詞（2）	参考書とテキスト、ワークブックにより文法の理解、英作文で該当の文法事項を理解する。
	16週	学年末試験	学年末までに習った内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながら平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながらよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	

評価割合

試験	レポート	小テスト	その他		合計
----	------	------	-----	--	----

総合評価割合	70	10	10	10	0	0	100
基礎的能力	70	10	10	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0